

祝 古河駐屯地創立63周年記念行事 第1施設団創隊56周年



古河駐屯地及び第一施設団（第一施設団長兼古河駐屯地司令 平栗陸将補）は、六月四日「古河駐屯地創立六十三周年・第一施設団創隊五十六周年記念行事」を挙行了した。

当日は、天候にも恵まれ、部内外からの多数のご来賓及び隊員家族や地域の方々、約六千名が駐屯地を訪れた。

東部方面音楽隊の演奏を皮切りに、観閲部隊指揮官 第一施設団副団長 寺西一佐の指揮の下、観閲部隊百五十六名が参加し整列する中、執行者である司令が入場し、記念式典が始まった。

司令は式辞の中で「平素は『地域とともに活気あふれる駐屯地』を目指しつつ、『各種事態等に適切かつ万全な態勢をもって対応する』ことで国民の皆様への信頼に応えるべく、各関係機関と連携を取りつつ、日夜訓練等に取り組み、より一層邁進していく。」と述べた。

観閲行進では、車両八十七両が参加し、各部隊の指揮官を先頭に主要装備品が堂々の行進を披露した。また、車両装備品紹介・駐屯地が災害派遣等を担任する各市町旗の紹介も行った。

式典終了後、防衛大学校ドリル・装備品アトラクション・油圧シヨベルによる書道・模擬戦闘訓練等のアトラクションを行い観客の目を楽しませた。特に、模擬戦闘訓練では、戦車や九四式水際地雷敷設置等、各種装備が連携し、臨場感あふれる訓練を展示し、来場者は驚きと興奮を隠せない様子だった。また、油圧シヨベルによる書道では、「九二式地雷原処理車と連携し「関東下真中」を完成させると拍手と歓声がおこった。

ちびっこ広場や売店等は絶えず来場者で賑わい、大盛況であった。昼からは、体育館において祝賀会食が行われ、駐屯地協力者等が多数参加する中で隊員を交え親睦を深める事ができ、盛会のうちに終了した。



模擬戦闘訓練



装備品アトラクション



観閲行進



執行者(平栗陸将補)



祝賀会食



油圧書道



防衛大学校ドリル



観閲部隊

企業隊内生活体験



心肺蘇生法



重材料運搬



連結訓練



基本教練



目測



体力測定



行進



格闘訓練

古河駐屯地各部隊等は、三月十四日から五月二十五日まで、計百十三名の企業生活体験を実施した。

企業生活体験では、企業の要望である、規律心・団結心の向上に重点をおき、基本教練や格闘訓練・連結訓練・行進・重材料運搬・体力測定・心肺蘇生法・目測等の体験を支援した。また、自衛隊の任務等も説明し、多岐にわたる活動などについて認識を深めていた。

着隊した参加者は、緊張した面持ちであったが、隊員達と接するうちに積極的に質問をしたり、返事も大きくなっていき、緊張感は無くなっていった。

終了した参加者からは、「基本教練等での集団行動や、人を指揮する事が難しかった。」「集団生活に戸惑ったが、楽しく過ごせた。」「色々な事を体験することが出来た。」「等感を述べた。」「三日間という短い期間ではあったが、内容の濃い体験と同期の絆を深め、参加者は駐屯地を後にした。

新隊員後期教育隊



宣言



教育隊旗授与

七月六日、新隊員教育隊は、体育館において、平成二十九年度新隊員教育課程(後期)入隊式を実施した。

前期教育を終了し、精悍な顔つきとなった五十八名の隊員達が、きびきびとした動作で式に臨んでいた。

執行者の第四施設群長は、要望事項として「挑戦せよ・一丸となれ」を上げ、「一人一人が工夫と努力をもって、施設科技術を体得すべく、教育に励んでほしい。」と祝辞を述べた。

その後、祝賀会食が行われ、代表者挨拶では、「施設技術を学び、同期との絆を大切に頑張っていきたい。」と教育の抱負を述べた。

曹友会 (献血・ふれあいパーティー)



ふれあいパーティー (堤防視察)



献血

六月八日、曹友会は古河駐屯地において献血活動を実施した。

隊員の協力により、六十三名の成果をあげる事が出来た。

次回は九月二十日、駐屯地厚生センターにおいて実施を予定している。引き続き、隊員の協力を願う。

六月二十五日、常総市においてふれあいパーティーを実施した。

今回は、決壊した堤防の視察及び被害状況並びに工事進捗状況の説明を受けたのち、被災者の方から体験談を伺った。

その後、参加者達はバレーキューを行い、親睦を深めた。次回は七月二十三日を予定している。

定年退官者 (予定) の紹介



業務隊 鈴木3佐
9月10日付



支処 羽生1曹
9月20日付



支処 梅野曹長
9月29日付



支処 堀越曹長
10月4日付



茨城地本 竹原1尉
10月23日付

第301ダンプ車両中隊



宿営地の警備



ダンプによる走行散布

五月九日から十九日までの間、東富士演習場を実施された、春季東富士演習場定期整備実動訓練に参加した。

訓練では、PKOを想定し、宿営地の警備及び作業地域を警備しつつ整備作業を実施し、総連土台数四九九台・二九九四㎡のダンプ作業を実施するとともに、施設器材による積載支援を実施した。また、朝礼時を活用し、安全教育等を実施して、安全意識を高め、整備作業を通じて、若年隊員の操縦技術の向上を図った。

第102施設直接支援大隊



野外整備 グレーダブレーキバルブインナーキット交換



五月十一日から十九日までの間、第一施設団が実施する春季東富士演習場定期整備実動訓練に参加し、野整備支援を実施した。この際、本訓練を部隊練成の場として活用し、野外における整備能力の向上を図った。

本訓練間においては、例年と比較して主要装備品の故障発生が少なく、日頃の第一線部隊との連携による故障の未然防止への取り組みの成果が現れたものと考えられる。

なお、故障の発生時においては、古河支処をはじめ関東補給処の支援を受けて速やかに部品を入手し、迅速な復旧を図った。

320基地通信中隊 古河派遣隊



施設巡視を行う中隊長の久々江1尉

六月十五日、派遣隊は中隊による平成二十九年度前期情報管理検査を受検した。

中隊長 久々江一尉の到着後、隊長による状況報告と派遣隊が管理する各施設の巡視が行われ、隊員それぞれが各施設で対応を行った。



検査状況

情報管理検査では、中隊の検査官が派遣隊内において個人情報、文書やデータ等の情報の保管が法規適性に行われているかの検査が行われた。

次回の後期情報管理検査に向けて、引き続き指摘事項なしを目標として各種情報管理の万全を期したい。

第337高射中隊



装備品説明

四月五日から七日までの間、中隊は株式会社スミハツで働く新入社員二十六名に対し、生活体験支援を行った。

規律心・団結強化を重視し、基本教練・救急法教育等を行うとともに、課外は整理整頓要領・ベトナムイク・清掃指導等を行った。

総合訓練となる十キロ行進では、傷病者発生状況付与にも適切に対応する等、随所に練成の成果を発揮した。訓練終了時には参加者の逞しい姿が見られた。



懇親会記念写真

六月四日、中隊は駐屯地創立六十三周年記念行事に併せて、中隊の創隊八周年記念懇親会を実施した。懇親会には、OB及び第二高射特科群長、群最先任上級曹長にも参加して頂き、中隊員としての懇親会により、相互の親睦をより深めることができた。

これからも、このような場を大切に、中隊の更なる発展を図る。

駐屯地広報班



昼食(缶飯)



行進

六月七日から八日までの間、三和高校の二年生六名に対し、インターンシップ(就業体験学習)支援を行った。当初、ブリーフィングにおいて自衛隊の行動、任務、各職種等を説明するとともに、駐屯地見学・基本教練・救急法・装備品展示・行進等を実施した。

また、行進後に食べた昼食の戦闘糧食一型(缶飯)では、初めて使う缶詰りの扱いに手間取りながらも、おいしそうに完食していた。学生達は、就業選択のため積極的に取り組み、将来の選択肢を増やすことが出来たようだ。

第341会計隊



優秀隊員 小島1士

五月十一日から十九日までの間、春季東富士演習場定期整備実動訓練に会計同行支援班として、三名が参加し、整備隊に必要な借上器材に係わる調整、糧食品現地調達及び緊急調達対応等を実施した。第一施設団長より、優秀隊員として小島一士が表彰を受けた。



集合写真

六月二十七日から二十八日の間、東方面会計隊長 菅野一佐による隊務視察を受察した。

隊務運営状況について確認・指導を受け、事後の整齊円滑な隊務運営の資となつた。